

校訓の「他律から自律へ」を柱にした子どもが主役の学校へ

日頃より本校の教育活動にご支援・ご協力いただき、感謝しております。

本校では、各教室や職員室、校長室などに、「他律から自律へ」の校訓を掲げています。この校訓は、歴代の職員や生徒達が山野中学校の指針として大切にしてきた言葉です。

本校に赴任した頃、この校訓をどのように教育活動に位置付けたり、意味付けたりしたらよいかを考え、「自らが決める」という言葉を付け加え、児童生徒のやる気を高める取組を進めて参りました。

1 コロナ禍での教育活動

新型コロナウイルス感染症の発生から2年が経過し、学校においても児童生徒が安全に過ごせるよう、手洗い・うがい、三密を避ける行動の徹底に取り組んでいます。

この間、児童生徒が安全に学校生活を送るために、本校の教育活動に対し、コロナ禍だからできないではなく、何ができるかを考え、校訓を再度見直して参りました。

2 コロナ禍で見えてきたこと

今こそ、「他律から自律へ」の校訓を柱に、「自らが決める」を重視した教育を創造しようと強く思っております。特に、今までのやり方、価値観で前に進むことが難しく、新しいことに挑戦できるチャンスであると捉え、職員と一緒に学校での学びを見直して参ります。職員とは、「自らが決める」ことについて、「やる・やらない」という捉えではなく、「多様なやり方を選択する」、「方法等を変更する」という視点で、児童生徒が成長できる取組を進めていこうと確認し合っております。

ここで、昨年度のコロナ禍での取組の一部を紹介します。

3 山野を活かした教育

春の小中合同遠足



茶畑での茶摘み



秋の自然観察



小中合同文化祭



昔の遊び道具づくり



川遊び、運動会など、コロナ禍で中止となった行事もあります。児童生徒の安全を第一に考え、判断された地域の方の配慮に感謝しています。

4 山野を誇りに

山野には、豊かな自然があり、移り行く四季の美しさがあります。児童生徒は、自然観察や史跡を訪ねる活動を通して、山野の良さを感じることができています。児童生徒にとって、今、山野で過ごしていることが、将来大人になってから、ふるさとを思い出す起点となります。

ついては、地域の皆様には、今まで通り児童生徒の思い出となる行事等のご協力をよろしくお願いします。

福山市立山野小・中学校長
山口 幸造